

令和6年度 第3回 学校運営協議会 記録

1 日時 令和7年2月18日(火) 午前9時30分から午前11時30分まで

2 場所 沼津視覚特別支援学校 会議室

3 出席者

(1) 学校運営協議員

第五地区西連合会事務局長

東部社会教育振興協議会事務局長

特定非営利活動法人ティンクル副理事長

和太鼓奏者・本校卒業生

沼津ライオンズクラブ会長

三島市主任児童委員

本校PTA

(2) 学校職員

校長 教頭 事務長 各部主事・主任 人財サポート担当

4 会議の内容

(1) 校長あいさつ

(2) 令和6年度学校自己評価について報告・説明および委員からの質問、御意見

(3) 不祥事根絶に向けた取組の報告・説明および委員からの質問、御意見等

(4) 連絡等

5 会議報告

(1) 校長あいさつ

- ・社会に開かれた教育課程の実現のため、地域の協力を得ながら実施してきた学校運営について、この会で評価をしていただき、来年度の計画に反映していきたい。
- ・県校長協会では、「教育へのリスペクト・プロジェクト」を行っている。社会全体で「これからの日本の未来のために教育を大切にしよう」という気持ちをより多くの人に持ってもらうことが教育予算の確保、教育環境の改善に繋がっていくと考えている。皆さんにも知ってもらいたい。

(2) 令和6年度学校自己評価について(取組目標Ⅱ項目について説明や質疑、意見)

①視覚障害に留意した「主体的に学び、思考を深め表現する授業づくり」

- ・校内グループ研修や一人一授業公開、他校への研究会、オンライン研修などを実施(自己評価A)

Q.他校の研修やオンライン研修について教えてほしい。

A.県内3校ある視覚支援学校間での研修、中部地区盲学校間での研修、全国の盲学校や視覚支援学校のオンライン研修など

Q.視覚障害に留意したとあるが、他障害についての研修は行っているか。

A.校内研修では、教科グループ、重複グループ、高等部グループの3つに分かれ行っている。重複グループが視覚障害以外の障害を合わせ持つグループとなってい

る。また、校外研修でも、県内の知的特別支援学校や肢体不自由特別支援学校への研修に参加している。

②視覚障害教育に必要な専門性の向上と指導の充実

- ・歩行指導、点字指導など自立活動職員研修を5回、通信による職員向け情報提供を3回実施。(自己評価A)

→目の不自由な方が発信しているラジオ番組がある。外からの新しい情報を子どもたちが使えるように先生方にも知ってもらい、情報を収集してほしい。

③将来をイメージし、幼児児童生徒の自己選択を意識した指導

- ・卒業生の進路状況、事業所見学、進路講演会などの職員進路学習会実施。各学部で自己選択場面を設定した授業実践、職業見学、先輩の話を聞く機会などを計画的に実施。(自己評価B)

→社会に出ると外とのつながりが大切。今は、困ったときは家族が教えてくれたり、手伝ってくれたりすると思うが、家族に頼らず、スマホ機能やアプリなどを使って、自力で解決できるようにすることも将来の自立につながる。

→卒業生やその保護者との縦の繋がりがコロナ禍以降なくなってしまった。縦の繋がりが持てる場面があるとよい。

④自他を尊重し合う心と体の教育

- ・自分や仲間、友達の好きなところや良いところを伝えられた幼児児童生徒は95%。性の指導、人権教育は年間計画の活用を呼び掛け、学部ごと1回以上授業実施。学部ごとに運動週間企画を実施。体力テスト結果の昨年比較が可能で向上した種目がある生徒は100%。(自己評価A)

→人に嫌われることが怖くて、意見を言えない人がいる。また、相手に否定的に取られる言い方をする人もいる。伝え方を学ぶことは大切。

→視覚障害者は相手の様子を読み取る情報が少ない。傾聴の仕方も相づちや間の取り方など様々な技術があり、学ぶことは大切。

→聞く態度や伝え方などを言語化して伝えるなど、しつけとして指導することも大切。

⑤超早期から成人までの切れ目のない教育相談の充実

- ・医療機関や保健センターに6回訪問し、理解推進のための説明を行った。全訪問先で取り組みについて「よい」との回答だった。(自己評価A)

⑥本校と視覚障害について東部地区における発信と理解推進

- ・市町福祉課等関係機関30カ所以上を訪問し、理解推進活動を実施。医療機関、教育機関、放課後等デイサービス職員を対象に見学会実施。参加者の理解が深まった割合100%。学校ホームページは新システムに移行。(自己評価B)

→少人数などの強みを発揮していくと良い。

→ホームページ掲載の写真が小さくて、子どもたちの表情まで見えない。子どもたちの楽しそうな表情が見えることは、学校の魅力発信にとっても重要だと思う。

⑦地域の方や外部講師等による社会とつながり合う授業や教育活動の実践

- ・外部講師等による授業や地域の方との交流など社会とつながり合う教育活動が行われている96%。(自己評価A)

→地域に開かれた学校として、地域に評価されている。地区センターへの訪問やふれあいの集いにも参加、地域の団体の職業講話にも参加してもらった。マンホールトイレの設置訓練は、他地区の方もやってみたいという意見も出ている。

→土日の地域行事参加ができるとつながりの幅が広がる。

⑧一人一人が緊急時や発災時にどのように動くかわかり、実践的な緊急体制の整備

- ・不審者対応訓練、地震・火災避難訓練、未告知訓練やスモーク体験、各種防災研修を実施。(自己評価 A)

→登下校中に発災したとき、スマホが通じないときもある。どこに助けを求めたらよいか等、生徒がどうしたらよいかわかるような指導があるとよい。

→学校では、自主通学の生徒は携帯電話で家へ連絡できるようにしていると同時に、誰かに助けを求められるよう自分で考えられる指導をしている。

→沼津駅までの登下校経路で、何力所か助けてもらえるようお願いしておくとうい。

→学校で使用のトランシーバーの性能が低めの印象。衛生通信を使うものや、出力が高いものもある。

⑨児童生徒が安全安心に活動でき、魅力的な環境の整備

- ・月一回の安全点検、ヒヤリハット点検実施。点検後は該当箇所の迅速な対応実施。学校の好きな場所があると伝えられた児童生徒 90%。(自己評価 A)

→生徒自身が安全のために気を付けるべきことについて、保護者にも伝えてほしい。

⑩専門性向上と授業準備ができ、魅力的な環境整備

- ・定時退勤日の設定、会議等の時間厳守、提案・検討事項の明確化、掲示板の利用、資料事前配布等により効率化。(自己評価 A)

⑪個々の強みを活かした風通しの良い職場づくり

- ・不祥事根絶研修として、事務職員も含めたグループ研修を 2 回実施。(自己評価 A)

→何でも言える関係づくりが大切。

★意見交換の後、委員の方へ、配布した評価用紙に記入し、帰りに提出または後日メール等での提出のお願いをした。

(3) 不祥事根絶に向けた取組について(説明および委員からの質問、御意見等)

- ・年間取組報告の説明と児童生徒学校生活アンケート集計結果の説明。

→アンケートで学校があまり楽しくないなど否定的な回答をした意見はどう考えるか。

→表現してくれた点については評価している。事後ではあるが、聞き取りの対応を行った。今後も対応していきたい。

→学校だけでなく、家庭の関係もある。家庭と連絡を取りあってほしい。

(4) その他

- ・学校と保護者の思いや評価の違いについては、連絡帳や対面などで解決できるとよい。
- ・思いを伝えるツールとしてラップ音楽が有効という意見がある。糸口になるとよい。
- ・委員の決め方については、次年度につながるよう何人かは継続してほしい。